

チャレンジ・フォーラム 事例発表
「企業との農業後継者育成支援協定締結」
発表自治体：広島県

【発表者】國西修司さん（広島県立農業技術大学校）、杉山光昭さん（株式会社中国クボタ）、金子哲博さん（ヤンマー農機販売株式会社中四国カンパニー）、積山泰典さん（農事組合法人ファーム永田）、小迫高さん（ヤンマーアグリイノベーション株式会社ヤンマーファーム）、田中美彌さん（広島県農業技術課） 《順不同》

○司会：広島県から最後の事例発表をお願いいたします。「企業との農業後継者育成支援協定締結」について、県立農業技術大学校の國西校長、株式会社中国クボタの杉山代表取締役社長、ヤンマー農機販売株式会社中四国カンパニーの金子部長、農事組合法人ファーム永田の積山組合長、ヤンマーアグリイノベーション株式会社ヤンマーファームの小迫農場長、農林水産局農業技術課の田中さんから発表していただきます。それでは、お願いいたします。（拍手）

○國西さん：それでは、「企業との農業後継者育成支援協定締結」について発表いたします。

私は、広島県立農業技術大学校校長の國西と申します。よろしくお願いいたします。

広島県農林水産局では、「2020広島県農林水産業チャレンジプラン」を策定しまして、産業として自立できる農林水産業の確立を目標に掲げ、生産から販売までが一体となった、持続的な農業の確立に向けて全力をあげて取り組んでいるところでございます。農業技術大学校は地域の核となる経営力の高い担い手の育成を目指して、集落法人や農業参入企業等で即戦力となる人材を輩出する役割を担っています。

これは、本校の農場の写真ですけども、施設が主体となっております、水田はありません。そのため、集落法人の即戦力となる人材育成を考えた場合に、水稻に関する実習ができない。また、大規模農業が体験できない。それから、施設、機械、装備に限界があるというような弱みがあります。この弱みを解決するために、株式会社中国クボタ、そしてヤンマー農機販売株式会社中四国カンパニーと農業後継者育成支援についての協定を締結しまして、圃場での実習や機械の安全作業の技能取得について支援をしていただくことになりました。

実習の内容ですが、水稻の関係はクボタにお願いをしまして、集落法人である農事組合法人ファーム永田において実習しております。また、園芸関係はヤンマーにお願いをいたしまして、農業参入企業でありますヤンマーアグリイノベーション株式会社ヤンマーファームで実習しております。

この取組の中で工夫しましたのは、水稻や大規模野菜の経営状況に即した高性能の機械

を使用した実習の体制を構築したという点でございます。単なる実習だけではなくて、集落法人や農業参入企業の大規模経営のノウハウを盛り込んだ授業にしたことで、より一層集落法人や参入企業から求められる人材の育成につながっていると思っております。

成果としては、これらの企業と地域との連携による教育の展開が、学生の就農意欲の向上に結びついていることが挙げられます。最先端の機械を使いましたかっこいい農業体験が、農業に対するイメージアップにつながっているということ。それから、水稻の実習体験によりまして、集落法人への理解が進んで、雇用就農の希望も増えております。また、大規模野菜生産の機械化を体験した学生たちは、施設型の野菜生産とは違った農業の可能性についても感じているようです。

それから、クボタ、ヤンマー両社からの求人をいただけるようになりまして、両企業へ就職するという道も開かれました。それでは、この取組についてご協力をいただいている皆さまに今日は来ていただいております。それぞれからご意見をいただきたいと思っております。

最初に、中国クボタの杉山社長、お願いいたします。

○杉山さん：わが社は農業機械の販売のみならず、社会貢献を経営理念にさまざまな活動を展開しております。具体的にはeプロジェクトと題した耕作放棄地再生支援や、田植え、稲刈りなどの農作業体験を通じた小学校の食育のサポートや、クボタグループ社員全員によるおいしい米づくりに欠かせない、きれいな水を守るための河川の清掃ボランティア活動です。

その社会貢献の一環として、農業の若い担い手育成のために協力できることがあれば、何かしたいという思いから、今回の協定締結に至りました。農業技術大学校とも強固な関係を築くことができ、県と企業と地域の三者間でよいつながりが生まれました。担い手育成のために最新鋭の農業機械で作業体験をしていただくなど、今後もできることは継続して支援していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○國西さん：ありがとうございました。次に、ファーム永田の積山組合長、お願いいたします。

○積山さん：農業技術大学校の生徒の皆さんの研修を受け入れることは、正直、大変なこともたくさんありますが、この取組を通して、若者が担い手として育ってくれることを嬉しく思っています。若く元気の良い学生が、農場に来てくれるので、私たちも元気をいただいています。

今後も引き続き、支援していきたいと思っています

○國西さん：ありがとうございました。続きまして、ヤンマー農機販売の金子部長、お願いいたします。

○金子さん：ヤンマーの担当は大規模野菜栽培でございます。さて、ヤンマーでは、今年の7月に次の100年に向けてプレミアムブランドのプロジェクトを発表いたしました。

今、スクリーンに映っているトラクターはフェラーリのデザイナーとして有名なケン奥山氏にデザインをしていただいたコンセプトトラクターです。そして、次が現在ユニクロでデザインディレクターとして活躍している滝沢直己氏による、農業ウェアです。

従来の3Kの農業からカッコいい農業を連想させる取組が、必ず若者の共感を生み、農業に若者を呼び込み、活性化されるものと信じております。

今後も、支援できるところはしっかりと協力させていただきたいと思っております。

ありがとうございました。

○國西さん：ありがとうございました。最後に、ヤンマーファームの小迫農場長、お願いいたします。

○小迫さん：ヤンマーファームの小迫と申します。よろしく申し上げます。

研修場所を私どもは提供しております。農場自体は平成22年に世羅町に開設をしております。この3年間、企業参入の皆さんの人材育成とか、あるいは大規模野菜経営の実施をやってまいりました。昨年、農業大学の学生の皆さんの研修を受けております。

品目につきましては、今、県が推進されております野菜、特にキャベツの機械化体験をしていただいております。私ども4人から5人の社員で対応しておりますけど、うち2名が農業技術大学の卒業生です。昨年と一昨年、採用をしております。

この連携を通しまして、やはり今まで担い手育成というのは、どちらかというと行政、農業団体を中心に引っ張っていただいていたわけですが、今後はやはり農業者もそうですけど、関連企業も含めて、やはりオールジャパンで農業の担い手というのは育成していくべきではないかなと思っております。

そういう意味で、私どももできることはしっかりと支援していきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。どうも、本日はありがとうございました。

○國西さん：皆さん、ありがとうございました。

今後の構想ですけれども、企業との取組をさらに進めまして、校内に最新鋭の機械の展示場を設置することを計画しております。そして、この機械を使った特別講義を行いたいと考えております。県内の農業高校や中国地方の農業大学校との連携を進め、この協定のメリットを幅広く進めていきたいと考えております。今後もカッコいい農業が体験できる、地域に開かれた大学校を展開しまして、農業の人材育成に努めてまいりたいと思います。皆様、今後ともよろしく願いいたします。以上で発表を終わります。（拍手）